



区議会議員
やない 克子



区議会議員
山崎 まりも



生活者ネットワーク 区議レポート NO.39

2023年11月23日 発行:やない克子 山崎まりも

〒176-0001練馬区練馬1-15-1-302 練馬・生活者ネットワーク TEL:03-3993-4899 FAX:03-5999-4632
webページ <http://nerima-seikatsusya.net> メール net-gikai@jcom.home.ne.jp



「香害」予防原則に基づく対策を

私たちは、洗濯柔軟剤や芳香剤などの強い香り成分の化学物質が原因で健康被害が生じていることをこれまで度々議会で取り上げ、「区民の健康を守る視点」で対策するよう、政策提案してきました。9月議会では、区や国が作成した啓発ポスター等の活用を求めました。

日用品の強い香り成分の化学物質による健康被害は、この半年間で多くのメディアに取り上げられ、特にNHKの複数の番組で特集されたことで以前に比べるとぐっと世間の認知度が高まったと感じています。それに比例するように、寄せられる相談も増えています。一方で、「香りの害(香害)」に関する心を持つ区民の方自ら、啓発のアクションを起こすケースも増えてきています。

「甘えるな!」とヤジが…

質疑から、基準に準ずれば、町会の回覧板や公設協力掲示板(まちなかの区の掲示板)に区や国が作成した啓発ポスターの掲示は可能だということが明らかになりました。ところが、定期的に掲示を求める発言の最中に「甘えるな!」のヤジが聞こえてきました。

「甘えている」のは誰なのか?何が「甘えている」ことになるのか?あるいは、単に嫌がらせなのか不明ですが、ヤジを飛ばした議員は、健康被害に苦しむ区民の姿は想像もできないのでしょうか。相談を寄せられたこともないからそんな発言ができるのだと思います。

▶日用品の化学物質で体調不良になる中学生がデザインした、香りだけでなく、抗菌・消臭成分も体調不良になることを訴えるポスター(日本消費者連盟ホームページより)



新たな香害「抗菌・消臭」へ

抗菌は、新型コロナウイルス感染拡大に対する「清潔」。消臭は、体臭や雑菌を起因とするニオイ対策として、「抗菌・消臭」を謳う洗剤や柔軟剤が増えています。また、「香害」の認知度が上がるにつれて、製造メーカーもそれを意識した商品開発やCMに変化していると感じています。ところが、抗菌・消臭のための新たな化学物質による健康被害が生じており、より深刻になっています。

「香害」は、日常的に市販されている日用品が原因で健康を害したり、突然発症し、誰にでも起こり得る新たな公害として捉え、予防原則に基づく対策が必要です。引き続き「健康を守る視点」で、化学物質の基準の見直しなど、区や都、国へ対策を求めていきます。



やない克子



PFAS汚染 徹底した調査を

防災井戸のPFAS 区独自調査を実施

2022年、多摩地域の水道水に使われていた井戸水から発がん性が疑われるPFAS(有機フッ素化合物)が検出されたことを受け、市民団体が実施した血液検査では、半数以上の住民の血中濃度が「健康被害の恐れがある水準」を上回ったことが報道されました。さらに、東京都環境局の調査では練馬区も国の暫定の目標値(1リットル当たり50ナノグラム)を超える値が検出され、区民から心配の声が届いていました。

環境省が2019年度に実施した調査で区内の防災井戸からPFASが検出された際、生活者ネットが確認したところ「飲料用に使用していないので調査する必要はない」と区は答えていました。

今回区内でPFASが検出されたことで改めて防災井戸の調査をすべきと指摘したところ「PFASは飲用井戸の水質調査の項目にないので調査する考えはない。災害時には(汚染された防災井戸は使用せず)区内の13カ所の給水所等の応急給水、避難拠点の受水槽や消火栓からの直接給水、ペットボトル飲料水など多様な手段で飲料水を確保する」と答えました。ところが9月議会の他会派の質疑で「区独自で水質調査を実施する」また、「PFAS除去のための高性能ろ過機の設置を検討する」ことが明らかになりました。

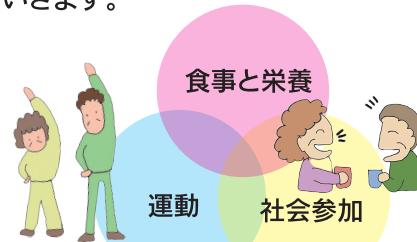


▲東京・生活者ネットワークが急遽企画した「PFAS地下水汚染問題を考える」学習会には、オンラインも含め約100名の参加があり、関心の高さを実感しました。地域の生活者ネットの仲間たちと。8月4日

暮らしの中のPFAS

区の対応は一步前進です。ところが、難燃性、防水・防汚、撥油の特性を活かした繊維(衣類)、食品の包装材、化粧品など多くの生活用品でPFASが使用されていることが指摘されています。知らない間に暴露している可能性もあるので、行政は地域を限定せず、希望者の検査を実施すべきではないでしょうか。

都内全域の生活者ネットワークや専門家とも連携して地下水の保全とともに、井戸周辺の土壤調査の実施で実態を把握し、住民の不安に応えるよう区や東京都に求めていきます。



「一人だから簡単に済ませる」などの食生活では低栄養になってしまう可能性があり、運動機能の低下につながりかねません。

身体機能の低下→活動量減少、基礎代謝量低下→食欲低下→食事の摂取量減少→低栄養→介護リスクの高くなる「フレイル状態」

この悪循環を断ち切るために「食」を通じた介護予防事業は重要です。

地域の高齢者が気軽に立ち寄り、飲食しながらさまざまな交流をする「会食と居場所」事業の拡充を求めていきます。

食を通じた介護予防の充実を

加齢に伴うさまざまな機能の低下によって健康障害を起こしやすくなっている状態のことを「フレイル」と言い、「フレイル予防」は高齢者施策の大きな柱です。専門家はフレイルを加速させるのが「低栄養」だと指摘しています。

私たちは、一人暮らし高齢者が増えている現状で、介護予防プログラムと会食、地域とのつながりが期待できる「生きがいデイサービス」のニーズは高まると考え、拡充を求めてきました。ところが区は、さまざまな介護予防事業に取り組むとして、減少傾向です。

「毎回食事を作るのが大変」「食事が楽しくない」

区議会議員
やまさき
山崎 まりも



企画総務委員会
みどり・環境等特別委員会

<https://yamasakimarimo.seikatsusha.me>

「包括的性教育」を広めよう

子どもたちを性犯罪から守るには

子どもが巻き込まれる犯罪の上位には、性犯罪・性暴力があります。性被害を受けた子たちは、それが『犯罪』であったことすらわからないことがあるといいます。教育関係者の性犯罪が後を絶たない現状がありながら、その対策としての子ども、先生や大人も含めた「包括的性教育」への取り組みは、学校教育の中で依然足踏み状態です。

性暴力を防ぐためは、

- ・大人にも「嫌なものはいや」と言える
- ・相談できる人がいる、場がある
- ・あなたは悪くない、と言ってくれる人がいる
- ・必ず守ってくれる人がいる
- ・あなたはあなたのままでいい、LGBTQの理解

など、自分と他人を大事にする、人権についても学ぶ「包括的性教育」を繰り返し、伝えていく必要があります。

包括的性教育の予算がない!?

そんな包括的性教育の普及活動をしている練馬区の助産師さんたちからは、「学校の授業ではなかなか取り上げてもらえず、PTAなど主催では予算がないと言われる」とのこと。本来なら予算化し、学校主導で取り組むべきです。引き続き、包括的性教育の実施と予算を求めていきます。



初めての決算特別委員会を終えて

決算特別委員会では、2022年度の区の決算について審査しました。区の担当者と、制限時間10分、一問一答でやり取りします。区の考え方や他会派議員のきびしいヤジの様子から、区議会における「生活者ネットワーク」の立ち位置を改めて実感。そう、私たちは区民とともに区政をチェックし、声を届け、想いにそった提案をしていく立場なのよね!

information

- 第四回定例区議会:2023年11月30日(木)~12月15日(金)
一般質問 やない克子(予定)



▲本会議最終日に登壇する山崎まりも

地域防犯防火連携組織の補助金に着目!

地域防犯防火連携組織※では、防犯・防火の活動の補助金上限3万円がありますが、その使い道は、パトロールの際の懐中電灯や腕章、防犯グッズの一覧等が示されているだけでした。この補助金を防犯のために「包括的性教育」の講座の講師料に使えるのではないかと、9月議会で取り上げました。この質疑により、講習会や講座などにも使えることが明らかになり、HPにも掲載されることになりました。

学校や保護者、地域の方とも、まずはこの補助金などを活用しながらでも、外部講師を活用し「包括的性教育」を早急に広げ、地域で子どもを守っていく活動につなげていきましょう。

※「地域防犯防火連携組織」…地域のことは地域で守るという考え方に基づいて、各小学校区のPTAや学校応援団、青少年育成地区委員会などで構成されている。地域の子どもたちの安全についての情報交換や見守り活動について話し合い、安心・安全を推進するための組織。

必要な資料を事前に請求して会派で話し合い、反対なら理由と意見、賛成でもより改善を求めて対案を示します。

これは身を削るような!? エネルギーを使う仕事だわ!と気を引き締めたのでした。時には想定外の質疑応答が飛び出す決算・予算特別委員会、傍聴に来てください。



生活者ネットワークは、地域の課題や生活者の声を集め、区政につなげています。